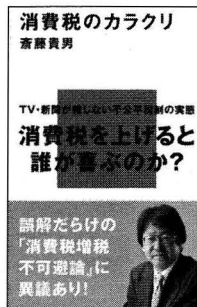


本の紹介

消費税のカラクリ

斉藤貴男著



衆院選のマニフェストで、四年間は消費税の増税はしないとしていた民主党ですが、菅直人首相は今回の参院選で、ギリシャの財政危機を引き合いに、突如「消費税増税」を発言して、野党の自民党と協力するとし、まさに大政翼賛会体制が窺える政治姿勢を示しました。

これまでの消費税は福祉財源としていたはずが、事実を検証すると、社会福祉予算は連年の削減で、過去二十二年間の消費税財源二百二十四兆円は、法人税の減税分に二百兆円消費されているのです。

本書は、残念なことに、選挙後の七月二十日に発売、書店に並びましたが、消費税論議は、これからが正念場を迎えるだけに、ぜひ多くの人々に読んでほしい、消費税の増税をストップし、「中小企業憲章」の理念に基づく税制のあり方を考え、提起していくことが急務となっています。

著者自身が「消費税論の決定版」と述べていますが、気鋭のジャーナリストだけに、巻末にある参考文献三十六冊以上を読みこなし、誰にでも分かるように噛み砕いた解説で具体的に惹き起している情報を含め、問題

提起しています。表紙にあるように、「TV・新聞が報じない不公平税制の実態」消費税を上げると誰が喜ぶのか?」誤解だらけの「消費税増税不可避論」に異議あり!」が明かされています。

経済危機とデフレは深刻で、輸出企業の景気回復に向けた海外化による空洞化現象にさらに追い打ちをかけ、輸出大企業が栄え、国(民)滅ぶ事態が予測されます。

参考までに章立てを紹介

第一章 消費税増税不可避論をめぐる
第二章 消費税は中小・零細企業や独立自営業を壊滅させる
第三章 消費者が知らない消費税の仕組み
第四章 消費税とワーキング・プア
第五章 消費税の歴史
第六章 消費税を上げるとどうなるか
(中同協顧問 河野 先) 講談社現代新書、七百二十円十税。

「地元」の力 地域力創造七つの法則

金丸弘美著



本書の著者・金丸弘美氏は、総務省地域力創造アドバイザー、内閣官房地域活性化応援隊地域活性化伝道師などを務め、全国各地の「まちおこし」に実践的に関わってきた方。その金丸氏がこれまでの豊富な経験をもとに、「地域再生」を実現させた十八の「地元」

をとり上げ、その秘訣を明らかにしたのが本書です。金丸氏は、活力ある地域には「デザイン力」「発信力」「知恵力」「コミュニケーション力」「編集力」「伝説力」「連携力」の「七つの力」があると分析。魅力ある「地元」の事例と共に紹介しています。

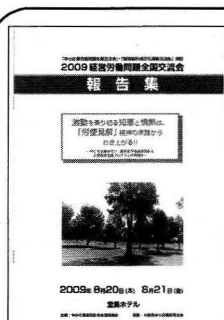
紹介されている事例は、教育で五十七万人の人を引きたり、「伊賀の里モクモク手づくりファーム」(三重県伊賀市、三重同友会会員)やおあちゃんのIT業(徳島県上勝町)、「歩くこと」が観光資源で五百五十万人集客「長崎さくら」(長崎市)など興味深いものばかりです。(KS) NTT出版刊、千六百円十税。

経営労働問題全国交流会の報告集を発刊

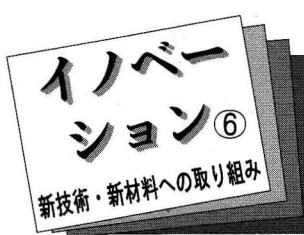
編集発行・中小企業家同友会全国協議会

見解「精神の実践からわき上がる!」今こそ企業を守り、雇用を守る経営指針と企業変革支援プログラムの実践を。

基調講演 「いま雇用に何が起きているのか? 恐慌が壊れた雇用を直撃する」(森



昨年九月に大阪で開催された「二〇〇九経営労働問題全国交流会」(主催・中同協、設営・大阪同友会)の報告集がこのほど発行されました。交流会のテーマは「激動を乗り切る知恵と情熱は、「労使



(最終回)

今回紹介する企業は、(株) ナンスを行っている

検査装置、大病院の検査室や医療機関等で使用する採血管に個人識別用のラベルを印刷・張り付けする装置、図書館用入館・図書貸出・返却自動管理装置などの新規受注品の製造、保守管理、メンテ

トプリンターの欠点である「小型化が困難」「印字時に騒音がある」という点を補完する目的で開発された次世代印字装置です。しかし、印字された文字の経時変化

と思われるので、現在では、スーパードリンクなどの用途は、減少するどころか増加傾向にあります。

使用される機器や用紙に

評価装置は、業界の初期段階から信頼できる品質のものを提供してきました。そのため、現在では世界規格として採用されており、国内だけでなく海外の多くの

大手製紙メーカー、機器メーカーなどに、多くの製造現場を体験したことです。他業種の技術・技能が活用できるケ

中小企業の製品が世界見客